

# 長期漁海況予報について— I

(1964年3月~6月, 鳥取県沖合の長期水温予報)

小 田 切 忠 夫

漁況予報については近年国の事業(補助事業)として大きくとりあげられているが、概事業については、早くから水産試験場の事業として取りあげられ実施されてきた。しかし、この問題は複雑で難解であり、現状では適確な予報をするまで至っていない。そして第1の理由として理論的根拠がまだ確立していないことにあると筆者は考えている。

従って、従来の予報は可能な限りの知識と経験を動員して行なってきたのであるが、これをそれでも理論化の方向に発展させるべく周期分析法の利用を考えてみた。以下は過去5ヶ年の資料により1964年3月から6月までの水温予報を行なったもので、おの方の御批判を得たい。なお、この予報の方法は新しい試みであり、実施中いろいろ不備な点があったので、参考のために摘記しておく。

- (1) 数学的計算は単純であったが、その量が莫大であり、検算が十分でなかった。
- (2) 過去の観測資料に欠測月が高く、それを外挿内挿により補足したが、ことに水温の最高時(8~9月)、と最低時(1~3月)が、気象その他の条件により実施されず欠測となっている場合は、実施者の主観が入っているのでそれにより起る誤差範囲についての検討は今回はなされなかった。
- (3) 過去の観測資料を利用する場合、各層についての傾角による深度更正がなされてはいたが、分析の際には更正をしない値を各点各層の水温として採用した。
- (4) 新しい試みであるので、各所についてなお詳細な検討を加えるべきであったが、時間的余裕がなかった漁海況予報についての関心が非常に高い状況にあるので一刻も早く発表したいと考えた。一応、予報を発表し、批判を仰ぎたいと考え公表した。

この方法は、今後本水試が実施する長期予報など予報事業の確立をはかる上で重要な基礎であるが、確率の向上、資料の検討、計算の迅速化については、今後改善しなければならないと思われるので、この点を前提として、参考資料にしていただければ幸甚と考える。

最後に、この予報を作製するに当たり、理論的問題につき御指導賜わった。舞鶴海洋気象台の谷岡技官、福井水試の丹羽技師、周期分析法実施に当たり、6ヶ月にわたる長期間、計算に従事した本試験場境分場、足平綾子女史外、分場の諸氏、実施中御領導下さった日水研、山中一郎氏に深謝申し上げると共に今後の御指導をお願い申し上げます。

## 実 施 方 法

- (1) はしがきにも前述したように、本予報は、鳥取県水産試験場が1959年より1963年間に実施した海洋観測資料を使用した。
- (2) 別表1.の各観測点各層の予報値は、これら各点各層の周期分析法により、予報値の算出を行った。
- (3) 過去の資料における各観測点各層の水温は、傾角更正を行わず、そのまま使用した。

## 予 報 の 概 要

- (1) 1964年3月 垂直分布図 (Fig 1)  
50m, 100m水平分布図 (Fig 2, Fig 3)
- (2) 1964年4月 垂直分布図 (Fig 4)  
50m, 100m水平分布図 (Fig 5, Fig 6)
- (3) 1964年5月 (Fig 7)  
50m, 100m水平分布図 (Fig 8, Fig 9)
- (4) 1964年6月 (Fig 10)  
50m, 100m水平分布図 (Fig 11, Fig 12)
- (5) 使用した観測点の定点図 (Fig 13)

Fig 1 1964年3月 垂直分布图

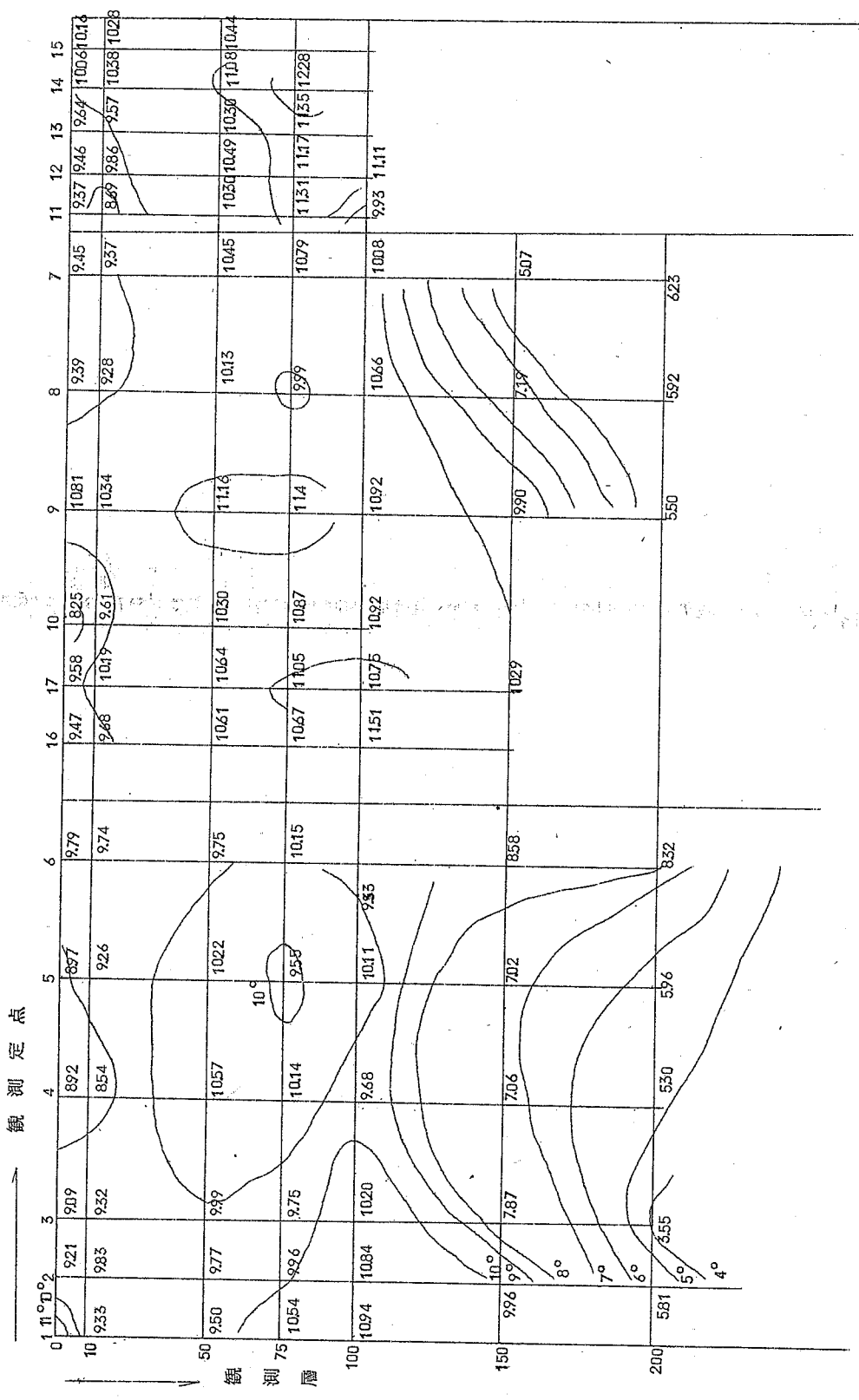


Fig 2. 1964年3月 50m層水温分布図

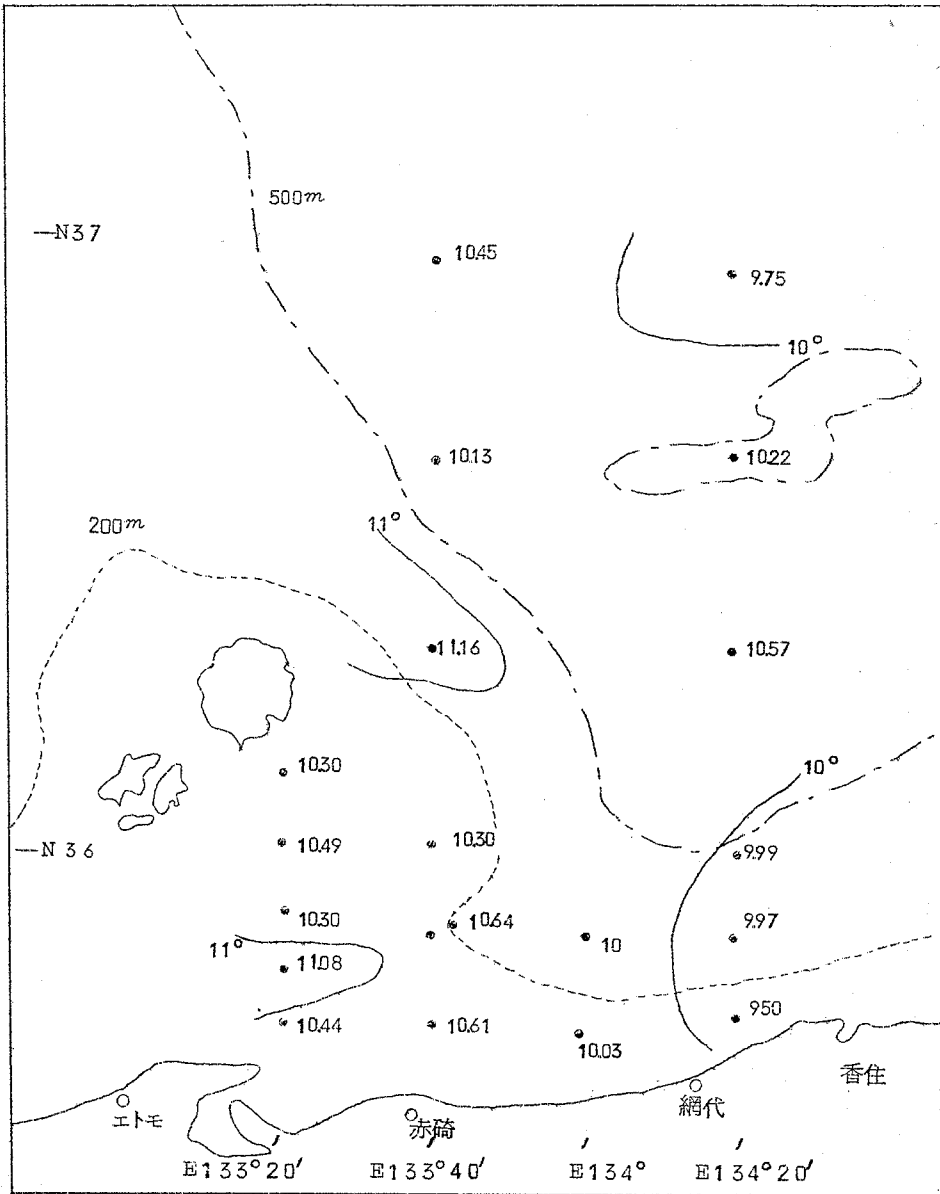


Fig 3 1964年3月 100m水温分布図

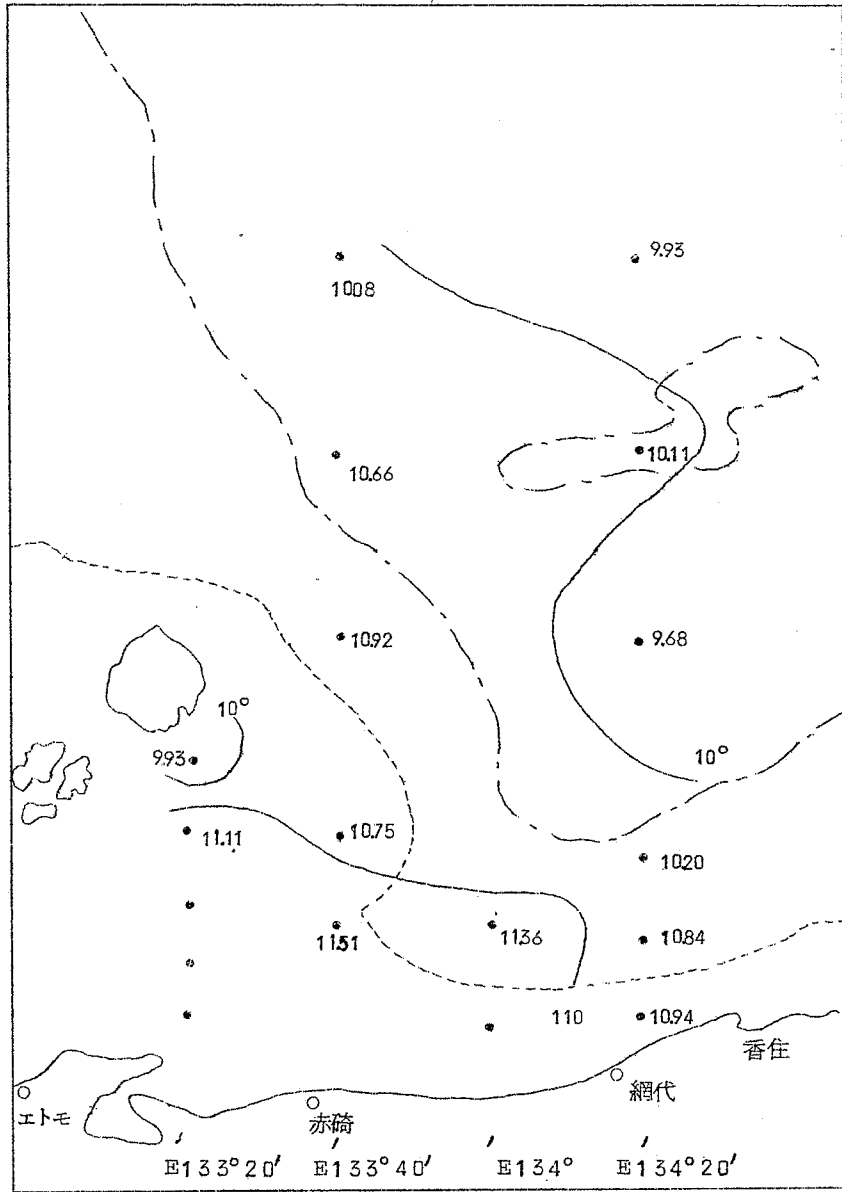


FIG 4 1964年4月 垂直分布图

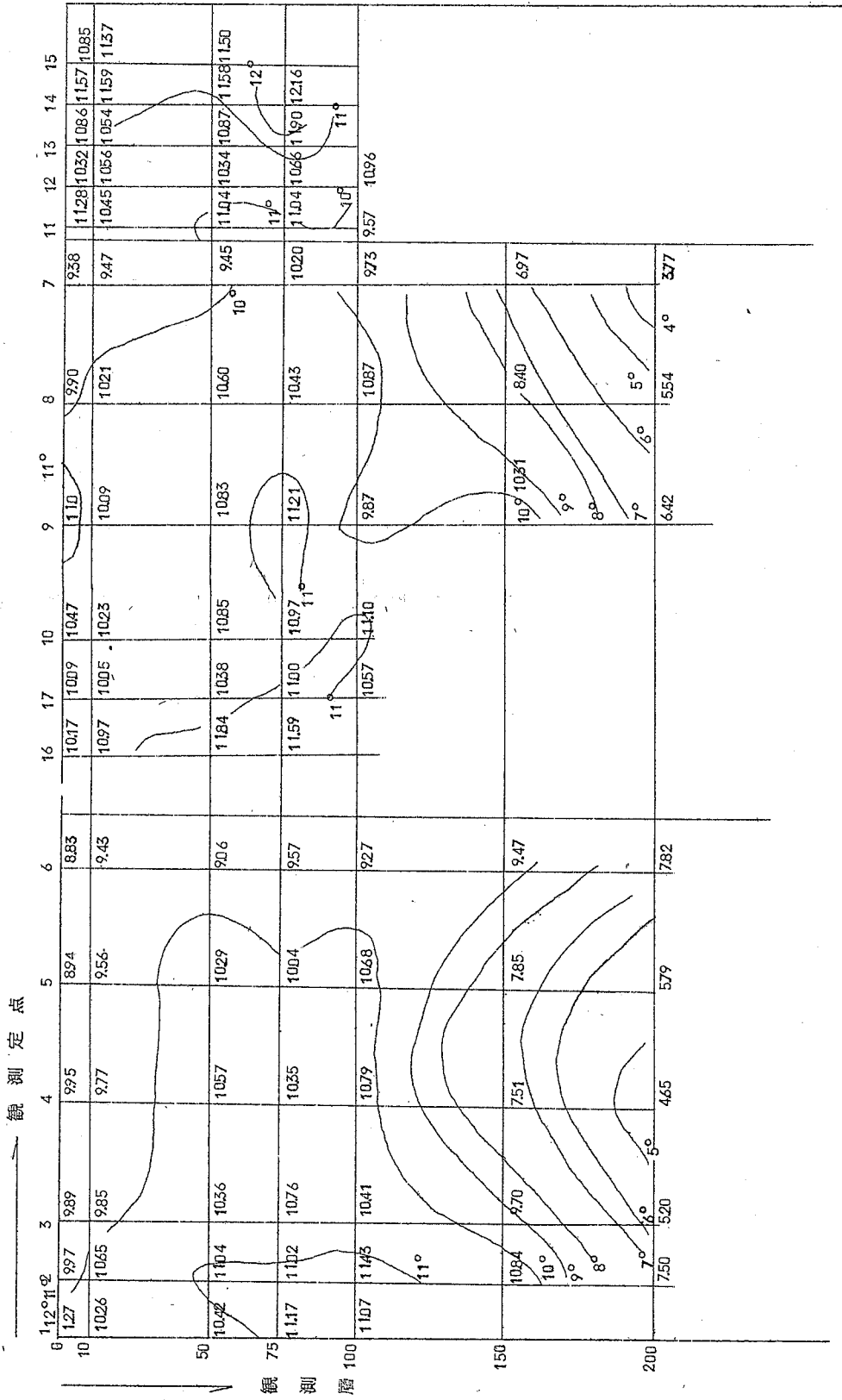


Fig 5 1964年4月 50m層水温分布図

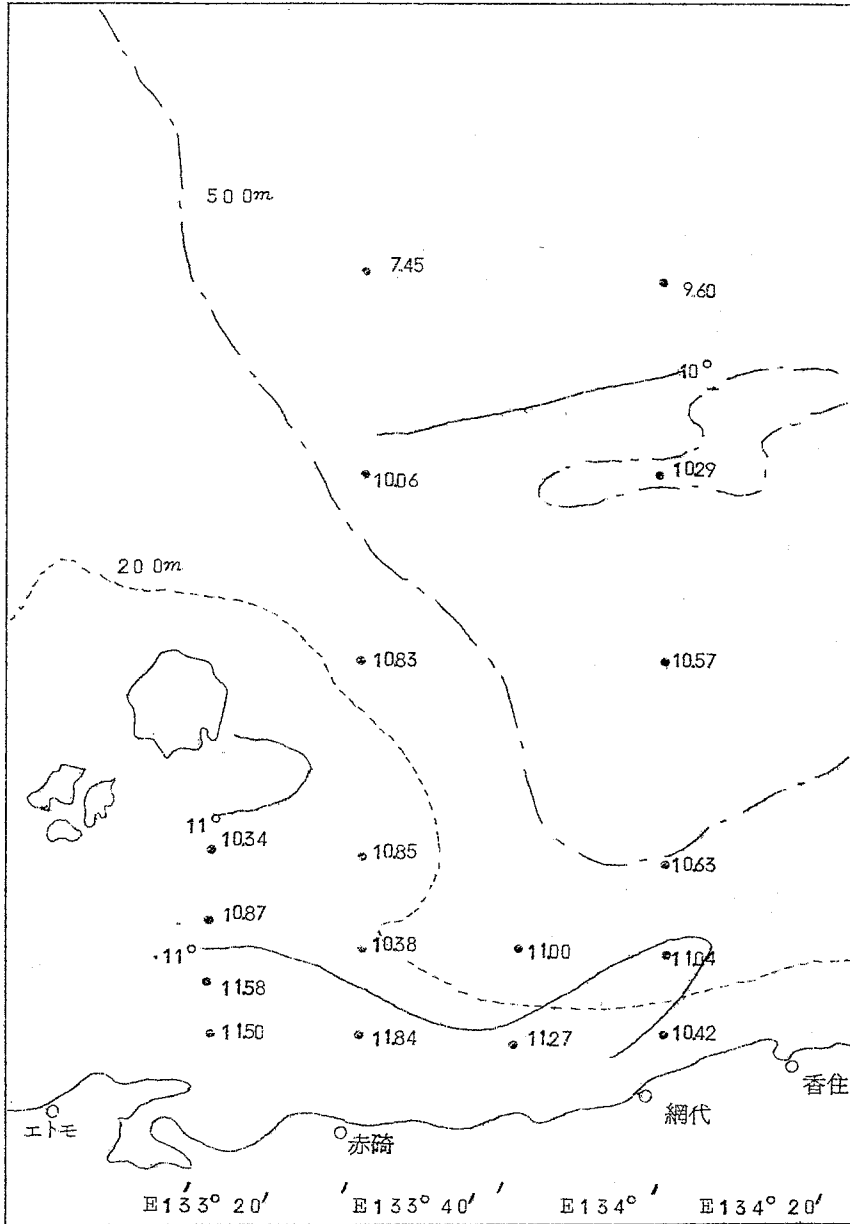
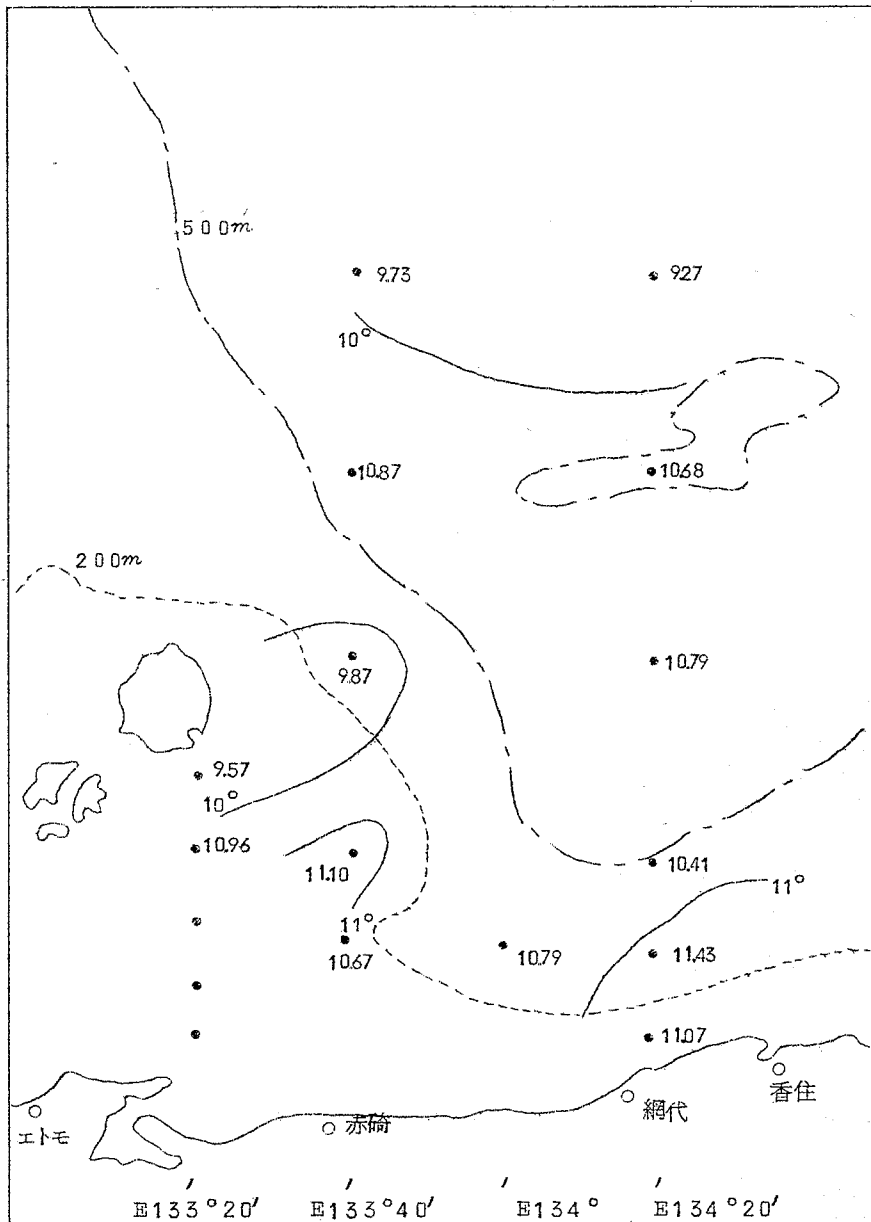


Fig 6 1964年4月 100m層水温分布図





観測点

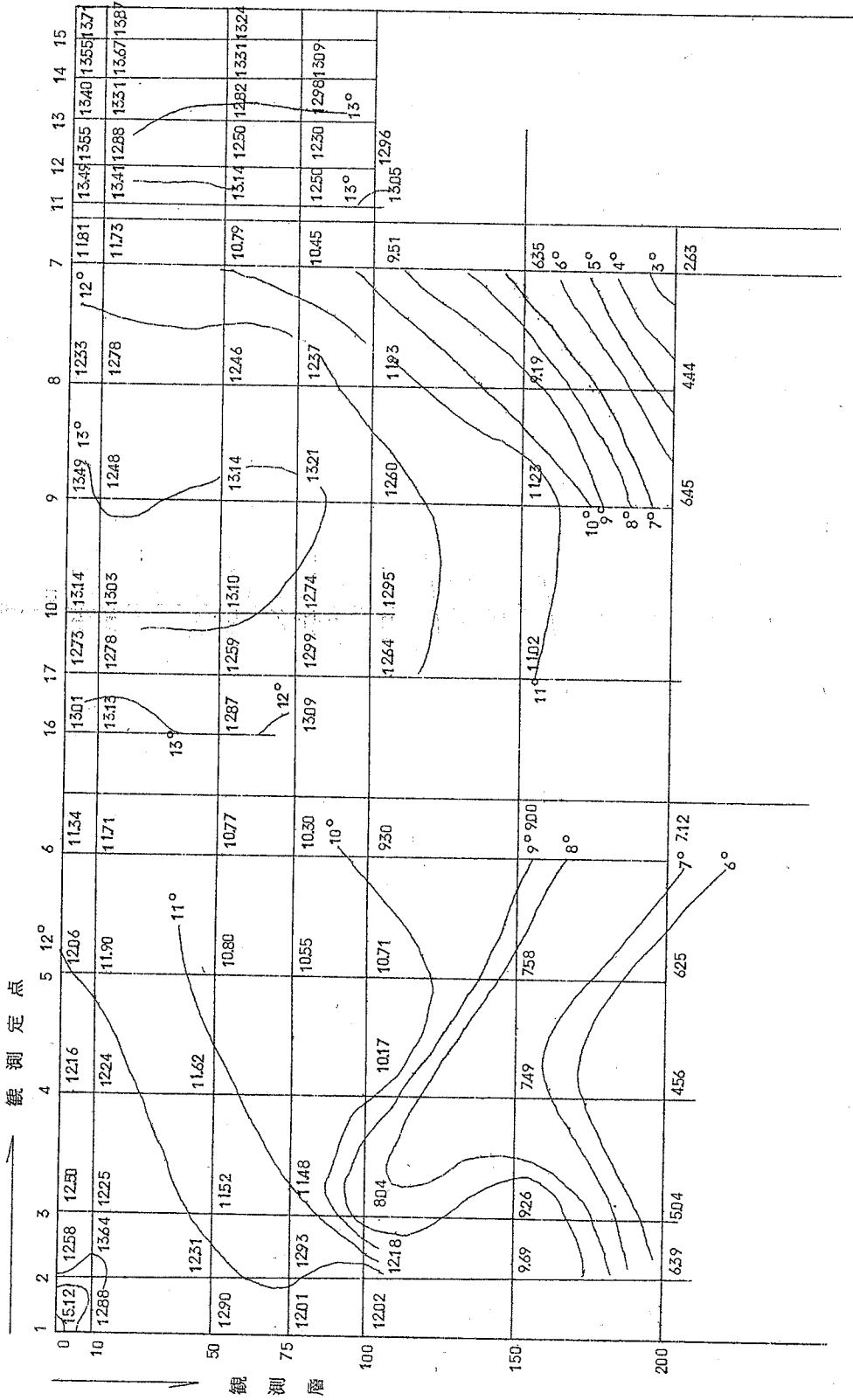


Fig 8

1964年5月

50m層水温分布図

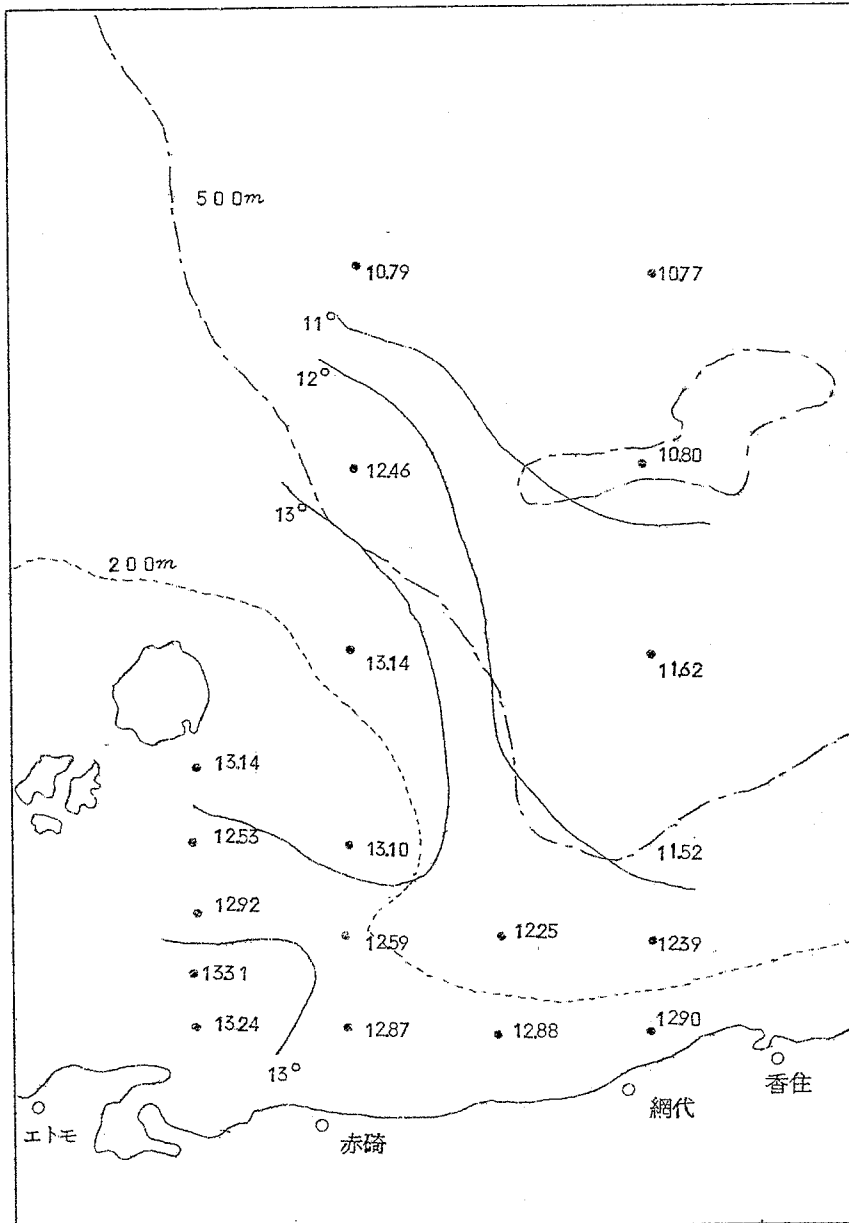


Fig 9 1964年5月 100m層水温分布図

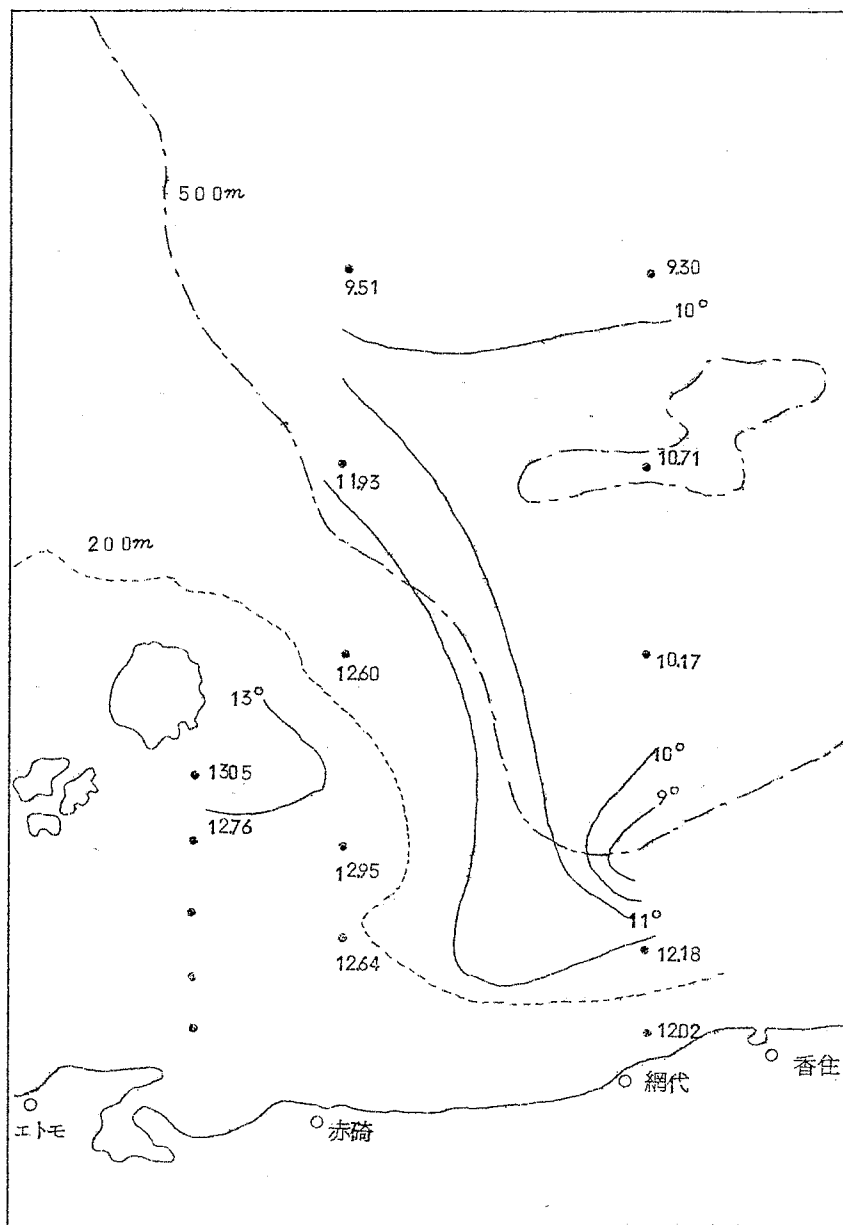


FIG 10 1964年6月 垂直分布图

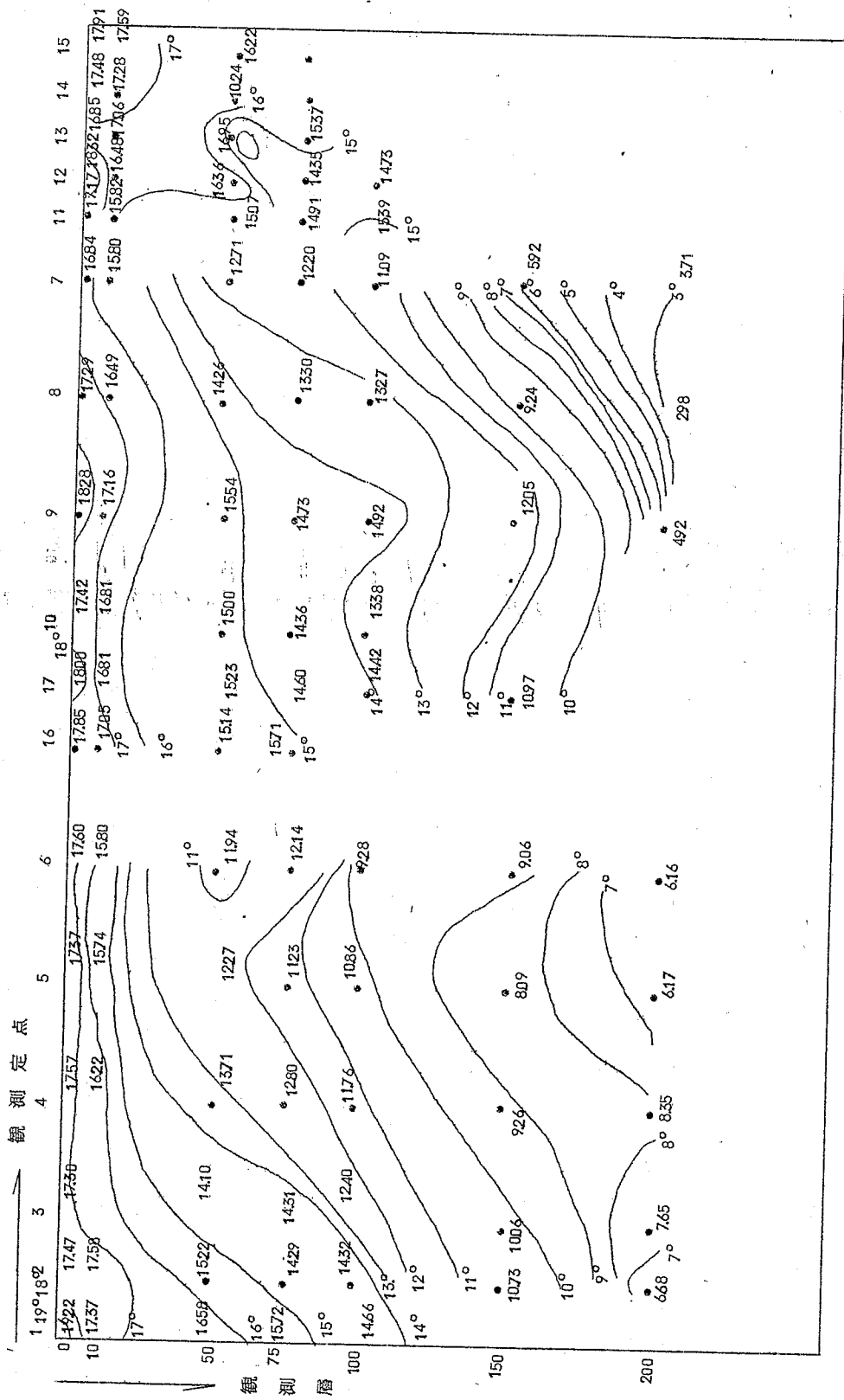


Fig 11 1964年6月 50m層水温分布図

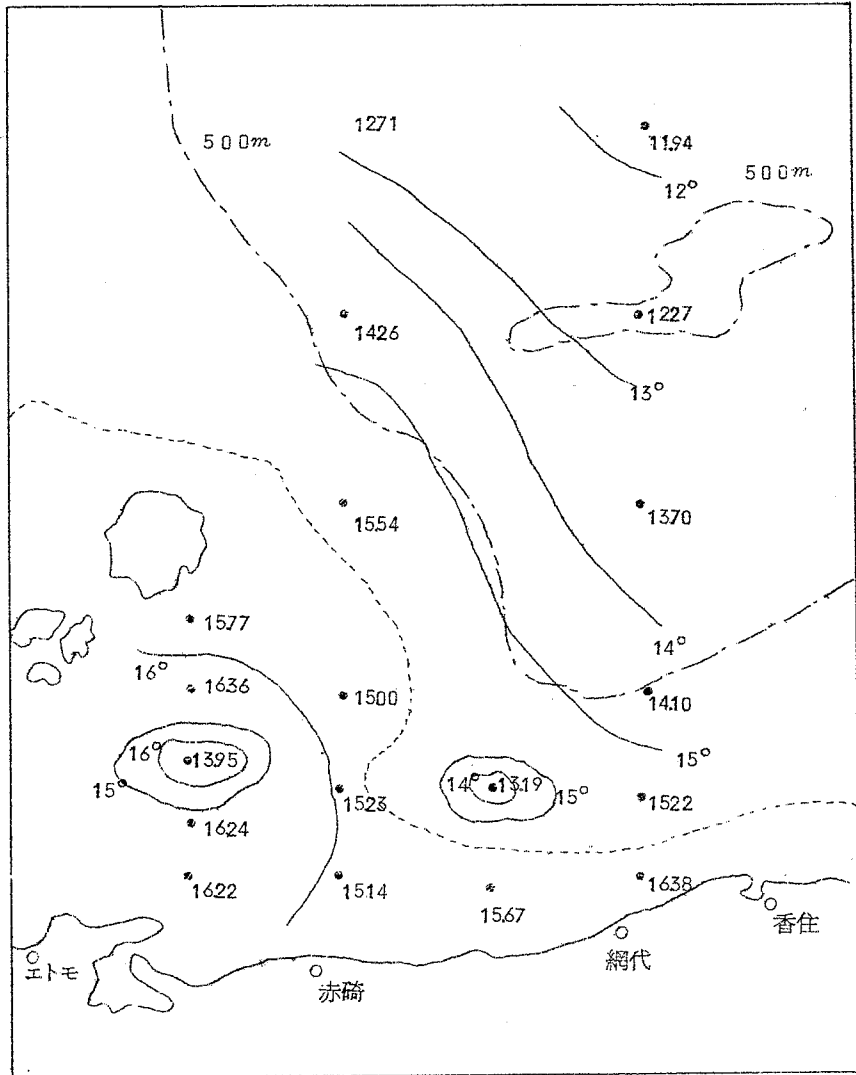


Fig 12 1964年6月 100m層水温分布図

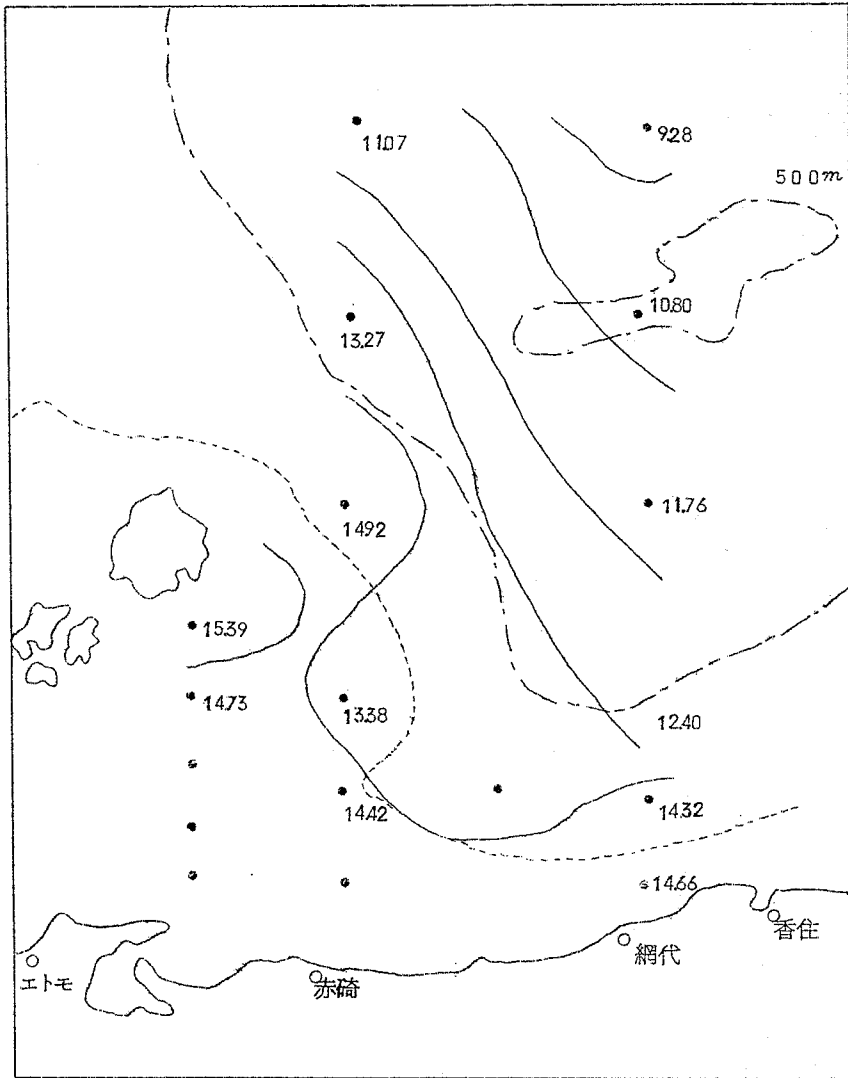


Fig 13 観測定點

